

チンゲンサイ

「チンゲンサイ」には、「チンゲンサイ」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。(非結球あぶらな科葉菜類の項 参照)

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普	通	● は種	● 収穫	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
白 斑 病					—	—	—	—	—	—	—	—	—
萎 黄 病					—	—	—	—	—	—	—	—	—
白 さ び				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
炭 疽 病				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
根 こ ぶ				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ア ブ ラ ム シ 類				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
コ ナ ガ				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヨ ト ウ ム シ 類				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ア オ ム シ				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ハ モ グ リ バ エ 類				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カ ブ ラ ハ バ チ				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

白斑病

留意事項

- 1 降雨が多い秋期に発生が多い。

防除方法

- 1 密植を避け、通風をよくする。
- 2 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) <1> 【4000倍 7日/1回】

萎黄病

留意事項

- 1 病原菌は根に侵入し、道管に沿って下から移動するため、葉の黄化も下から進行する。
- 2 株元を切断すると、維管束が変色していることがある。
- 3 根傷みによって発生が助長される。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 下記の薬剤で土壌消毒を行う。
 - ・ [キルパー](#) <ー>
 - 【原液 60L/10a 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する
は種または定植10日前/1回】
- 4 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

白さび病**留意事項**

- 1 比較的涼しく、湿度が高い時に発生が多い。
- 2 QoI剤<< 1 1 >>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 ユニフォーム粒剤とリドミル粒剤2に含まれる成分メタラキシル及びメタラキシルMの総使用回数は2回以内(種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内)。
- 4 ユニフォーム粒剤とアミスター20フロアブルに含まれる成分アゾキシストロビンの総使用回数は3回以内(粒剤は1回以内、水和剤は2回以内)。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ユニフォーム粒剤](#) << 1 1 >> < 4 > 【9kg/10a 全面土壌混和 定植前/1回】
 - ・ [リドミル粒剤2](#) < 4 > 【9kg/10a 全面土壌混和 は種時又は定植時/1回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 7日/2回】

炭疽病 (たんそびょう)**留意事項**

- 1 降雨が多く、気温が高い時期に発生が多い。
- 2 進展がきわめて速いため、発生初期の抜き取りが重要である。

防除方法

- 1 わら、またはポリフィルムなどでマルチングする。
- 2 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) < 1 > 【4000倍 7日/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

根こぶ病

留意事項

- 1 日長時間が長い時に発生しやすい。
- 2 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
- 4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <ー>
【30kg/10a 均一に散布して土壌と混和 は種又は定植21日前/1回】
- 5 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ネビリュウ](#) <36>
【20kg/10a 作条土壌混和 は種又は定植前/1回】または
【20~30kg/10a 全面土壌混和 は種又は定植前/1回】
- 6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

アブラムシ類

留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 少雨のときに多発しやすい。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により、被害軽減に努める。
- 2 は種時~定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) <4A>
【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
 - ・ [ジェイエース粒剤](#) <1B> 【3~6kg/10a 作条散布後土壌混和 定植時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) <4A> 【2000~4000倍 7日/3回】
 - ・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) <4A> 【2000倍 3日/2回】
 - ・ [気門封鎖剤](#)<ー> (Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

コナガ

留意事項

- 1 葉裏に網のようなまゆをつくってサナギになる。
- 2 春~初夏、秋の発生が多い。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 は種時～定植時に下記の薬剤を使用する。
 - ・ [モスピラン粒剤](#) < 4 A >
【0.5g/株 株元散布 定植前日～定植当日/1回】または
【3kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) < 6 > 【1000～2000倍 3日/3回】
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日/3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 > 【2000倍 7日/1回】
 - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)

留意事項

- 1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【ハスモンヨトウ、ヨトウムシ 2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) < 2 2 B >

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 【非結球あぶらな科葉菜類 ハスモンヨトウ 2000倍 前日／3回】
- ・ [スカウトフロアブル](#) 劇 <3 A> 【ヨトウムシ 2000倍 7日／2回】
- ・ [BT剤](#) <1 1 A> (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

アオムシ

留意事項

- 1 幼虫による被害は春と秋に多い。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 定植前日～当日に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [モスピラン粒剤](#) <4 A> 【0.5g／株 株元散布 定植前日～定植当日／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) <6> 【1000～2000倍 3日／3回】
 - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500～5000倍 前日／2回】
 - ・ [BT剤](#) <1 1 A> (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

キスジノミハムシ

留意事項

- 1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

防除方法

- 1 シルバーマルチを利用する。
- 2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) <4 A>
 - 【6kg／10a まき溝土壌混和 は種時／1回】または
 - 【6kg／10a 土壌混和 定植時／1回】
 - ・ [モスピラン粒剤](#) <4 A> 【0.5g／株 株元散布 定植当日／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A> 【2000倍 3日／2回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 <1 4> 【1500倍 7日／3回】

ハモグリバエ類

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 定植時に下記の薬剤を施用する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アクタラ粒剤5](#) < 4 A > 【6kg/10a 作条混和 定植時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500~5000倍 前日/2回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日/3回】
 - ・ [トリガード液剤](#) < 1 7 > 【1000倍 7日/ 2回】

カブラハバチ

防除方法

- 1 密植を避け、通風をよくする。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 < 4 A > 【4000倍 7日/1回】
 - ・ [スカウトフロアブル](#) 劇 < 3 A > 【2000倍 7日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。